



➤ ISO 45001 Whitepaper

労働安全衛生マネジメントシステム

国際規格発行に向けた最新動向

背景

1999年のOHSAS 18000シリーズ発行前、マーケットには多くの混乱が生じていました。組織がさまざまな国際労働安全規格や独自の認証スキームを選択をしていたからです。このため、世界中の多くの組織から、国際レベルでの取引に支障がない規格が待望されていました。

OHSAS 18000シリーズの発行後、OHSAS 18001はすぐに支持を得ました。最近のOHSAS規格認証調査では、現在127カ国を超える国々で使用がされている結果が示されています。このことは、日々記録される労働安全における事件や事故、ならびにそれらに関連する費用についての衝撃的な統計によって、国際的に認められた規格を使用し、労働安全衛生マネジメントシステムが共通化されることが世界的に必要であることを強く示した結果であるといえます。

ISO 45001: 世界的に同期がされた労働安全衛生マネジメントシステムへの回答

新規及び改定版として発行される（ISO 9001やISO 14001を含む）規格の骨格として使用される付属書SLとともに、新たな国際規格もOHSAS 18001、USZ 10とその他幅広い仕様書から策定が進められています。

プロジェクト委員会のISO PC283は、現在50の国々とILO（国際労働機関）を含む国際機関と協力し、先進国と発展途上国双方の地域、地方、国といった世界中の人々の労働安全衛生の改善に向けて開発を進めています。

現在の状況

ISO PC 283は、新たな国際規格における3年間の開発計画の開始と、ISO 45001のワーキングドラフト作成のため2013年10月に初めての会合を行いました。OHSAS 18000シリーズ（OHSAS 18001は要求事項、OHSAS 18002はガイダンス文書）とは異なり、ISO 45001は仕様書固有の文書と、短い附属ガイダンスで構成されます。

この決定は正式になされていない状況ではありますが、さまざまな国際機関は初期導入ガイダンスを作成するかも知れません。

CD（委員会原案）の初回フィードバック

ISO PC 283は、ISO 9001やISO 14001のテキストと同様にハイレベル構造（付属書SL）に基づいてCD（委員会原案）を作成しました。

簡条 1	適用範囲
簡条 2	引用規格
簡条 3	用語及び定義
簡条 4	組織の状況
簡条 5	リーダーシップ
簡条 6	計画
簡条 7	支援
簡条 8	運用
簡条 9	パフォーマンス評価
簡条 10	改善

この委員会原案は、利害関係者が検討し、文書へコメントを投稿するために公開されました。開発プロセスの一環として、プロジェクト委員会は次の段階に進む前にこれらのコメントに対応をする必要があります。このセクションでは、コメントを詳細に見ていきます。

簡条 1、簡条 2

適用範囲、引用規格

UKは45コメントを提出しました。1つは全体的な部分に、35は序文に、9つは適用範囲のコメントとなっています。このセクション内のテキストは、まだ提出段階としては未熟でした。コメントのほとんどが、本文と定義で使用する文言、例えば「労働者」といった用語の使用のされ方に対し一貫性をもつ必要性に焦点をあてていました。衛生と安全の側面が全体を通して一貫性とバランスをもって使用され、それを成し遂げる方法を見出す必要性を示唆しています。

簡条 3

用語及び定義

このセクションにおいて90のコメントを処理した後、UKは8つのコメントを提出しました。ここでは主に、「労働者」と「職場」といった極めて重要な定義に関するコメントを提出しました。また、「請負業者」を「外部プロバイダ」に用語変更することに対して、グローバルレベルで受け入れられるかどうか提起されました。

簡条 4-6

組織の状況、リーダーシップ、計画

UKは簡条4に対して10のコメントを、簡条5に対して25のコメントを、簡条6に対しては49のコメントを受領しました。そして、最終的にそのうちの35のコメントが受け入れられました。簡条4のコメントは、ほとんどがISO 45001、ISO 9001、ISO 14001間の不整合による懸念でした。簡条5では労働安全衛生パフォーマンスの結果と同様に、トップマネジメントの役割に関連したコメントでした。簡条6のコメントは、「ハザード」と「インシデント」といった特定の用語の一貫性のない使用に関する懸念が提起されました。

簡条 7-10

支援、運用、パフォーマンス評価、改善

簡条7では、39のコメントがあげられ、資源、能力や認識の周辺の問題がハイライトされました。これは、文書化した情報、コミュニケーション、参加、協議及び代表者が含まれています。簡条8では、管理策の階層、変更のマネジメント、外部委託、調達、請負業者、緊急事態準備体制及び対応を中心に合計46のコメントがありました。これは「請負業者」から「外部プロバイダ」への変更、そして、「従業員」の代わりに「労働者」の使用が含まれます。簡条9は、監視、測定、分析、及び順守評価について22のコメントがありました。これら

はまた、内部監査とマネジメントレビューの側面への申し立てでもあります。箇条 10 の 7 コメントは、インシデント調査、不適合、是正処置及び継続的改善への懸念が大部分でした。

附属書 A

附属書 A は、ISO45001 の解釈に対する指針を与えることを目指しており、導入指針ではありません。プロジェクト委員会内のタスクグループは、最後に加えられたこの附属書で、

まず要求事項の起草に集中をしました。よって、委員会原案が発行された際、このテキストは比較的未熟でした。コメントの大半は、矛盾や規格の附属書と本体との間の整合性の欠如を指摘しています。

今後の予定

ISO 45001 は、世界初の労働安全衛生の国際規格で、2018年3月12日に発行されました。

ISO 45001 規格を導入することで、安全かつ健康的な職場環境の構築、事故・労働災害および病気の予防、継続的な労働安全衛生のパフォーマンスの向上などが可能になります。

大規模・小規模どの組織にも適しており、組織にとって最も重要な資産である“人”を守り、卓越性と組織レジリエンスの向上が可能になります。

現在 OHSAS 18001 の認証を受けている組織は、ISO 45001 へ移行に向けて 3 年間のアップグレード期間が設けられます。

An organic process

ISO PC283 のメンバーシップは常に進化し、新たなメンバーが規格発行プロセスに参加しています。国際リエゾン組織にふさわしい組織として ISO のすべての参加者は、いつでも新たなメンバーの参加を歓迎しています。意見表明を行うことのできる公開された新規規格は、あらゆる規模の組織（特に中小企業）にとってベネフィットであることを英国委員会は強調しています。

ISO は世界中の様々な場所で会議を開催しています。これは少ない資源しか持たない参加国にとって、参画の機会を創出し、常に長い距離を移動する必要がないようにすることを保証しています。

委員会からの言葉

労働安全衛生マネジメントシステムは、トップマネジメントのコミットメントが行われな限り効果を発揮しない。この課題をどのように ISO 45001 は克服していくか。

OHSAS 18001 は、しばしば組織内の他のマネジメントシステムとは別に機能すると考えられていますが、この縦割り型のアプローチは必然的に問題を引き起こします。

安全衛生はビジネスマネジメント上、肝要なパートです。品質や環境マネジメントシステムのような他のマネジメントシステムと同様の構造や、核となる要求事項を使用することによって、ISO 45001 は、直接トップマネジメントの責任において、労働安全衛生をマネジメントする効果をもたらすこととなるでしょう。

OHSAS 18001 はどうなるか？

多くの国が OHSAS 18000 を国家規格として適用していますが、いまだ認定機関と OHSAS の間には正式な合意がありません。ISO 45001 は、このギャップを埋めるために、誰もが適用可能である国際的なベンチマークの設定を目指しています。

OHSAS プロジェクトグループは、ISO 45001 の開発プロセスに積極的に参加をしています。彼らが ISO 45001 を承認した場合、OHSAS

18001 は取り下げとなります。 そうでない場合は、取り下げは行われません。

ISO 45001 が OHSAS 18000 と主に異なる点は下記となります。

- 附属書 SL と用語の使用
- リーダーシップとトップマネジメントの役割に対する強調
- 新たなリスクベースのアプローチ

組織はどのように ISO 45001 の認証取得することができますか？

組織にとって ISO 45001 の導入と審査をよりシンプルにするため、ISO 45001 のフレームワーク（附属書 SL）は、すべての ISO マネジメントシステム規格と整合性をもたらすよう設計されています。規格が発行され、移行期間が開始されると、審査員や組織に対してのトレーニングコースも予定されています。また、OHSAS 18000 から ISO 45001 への変更は、改定される ISO 9001 や ISO 14001 の移行の手助けにもなります。

なぜ「労働安全衛生」と呼ばれるか？

ISO 45001 のタスクグループは、どのような（どの組織まで、どこまでの従業員を含めるかの）適用範囲になるか、障壁はなにか、いつ何を取り上げるのかといった前後関係の意図に関する質問に対して、いつも模索をしています。専門家らは、規格で「組織（Organizational）」が「職業（Occupational）」から除外される場所について異なる見解を共有しています。

労働安全衛生の基準は従業員だけがカバーされることになる米国の一方で、「職業」の文字通りの解釈よりも広い範囲を示している）英国は、組織の活動によって影響を受ける公衆のメンバーをカバーすることが期待されています。

国が異なることによるこれらの文化的及び規制上の違いは、意図的に業務の特定の領域を除くことなく、組織が適用範囲の幅を定めることを規格は許容していることが考慮されています。

▶ ISO 45001 発行スケジュール



※上記タイムラインの内容は変更となる場合があります。

ISO 45001 に関する
最新情報はこちらへ：

<https://www.bsigroup.com/ja-JP/iso-45001/>

bsi.

BSI グループジャパン株式会社
T: +81 (0)3 6890 1172

www.bsigroup.com/ja-JP/



By Royal Charter